

## 令和元年度市長との小学校区意見交換会（南小学校区）記録

日時 令和2年2月15日(土)

午後1時30分～3時

場所 消防署

出席者 一般市民 48名

市長、副市長、総務部長、市民部長、健康福祉部長、建設部長、消防長、教育こども未来部長、地域問題研究所 池田氏（コーディネーター）、事務局（秘書企画課）

テーマ「第5次岩倉市総合計画策定に向けて」

### 1 あいさつ

- 2 第4次岩倉市総合計画基本計画の総括 秘書企画課主幹  
第5次岩倉市総合計画の展望 市長

### 3 意見交換

(1) 安心していきいきと暮らせるまち（健康・福祉）

(2) 自然と調和した安全でうるおいのあるまち（環境・防災防犯）

【意見等】 第5次総合計画策定に係るワークショップに参加した人の年齢層・性別が知りたい。

また、子どもの参加がなかったが、なぜ子どもの意見を取り入れなかったのか。岩倉市子ども条例では、子どもも社会の一員であると定めているので、第5次総合計画の策定においても子どもの参加を求める。

【意見等】 下田南遺跡の発掘調査現地説明会に参加した。これまでは広大な田が災害時における保水機能を有していた。貯水池を検討しているとのことだが、今後の開発を見据え、限られた地域だけでなく周辺地域の分の確保も必要ではないか。

【意見等】 道路全般に言えることだが、自転車で走行していて危険だと思う箇所が多い。メンテナンスはどのようにしているのか。

【意見等】 基本計画では保育園の統廃合に触れられていないが、進める方針に変わりはないのか。保育園は身近にたくさんあるほうがよいのではないかと思う。

また、広い道路ができるとう交通量が増え、交通事故も増える。高齢者や幼い命を交差点での事故から守るためにも、信号機の設置を求める。先の発言にもあったが、路面状態の悪い道路を自転車等で走行するのは危険なので、メンテナンスもしっかりしてほしい。

【意見等】 緑地を公園として整備することも大切だが、岩倉市のコンパクトさを活かしたまちづくりが大切では。徒歩でも自転車でも自由に行き来できるように、「線」を意識した道を整備してほしい。

【市長】 川井野寄地区において、貯水池は計画上 9.3ha 中およそ 2 ha 分の面積を占めており、残りの 7 ha ほどを分譲していく。東部分が工業系拡大検討ゾーンになっているが、依然として調整区域にはかわりないので、それほど開発は進まないと考えている。いずれにしても、開発をするごとに貯水の対応はしていく。この後の開発で全て田を埋め立ててしまう訳ではないのでご安心いただきたい。

道路のメンテナンスについて、ご指摘のとおり作って終わりではなく、市民の皆さんに安全に利用していただくことが第一。それが地域の発展、また市全体の発展につながっていくと考えている。

また、交通安全についても社会問題になっているが、警察や県など関係機関にも話をしながら、市として安全安心のためにできることをしっかり進めていきたい。具体的には、樹木の剪定、草刈り、信号機の設置、横断歩道の設置などがある。歩道の設置には新たな用地買収も生じてくるが、状況に応じて対応していく。安全安心の部分は最重要課題なので、しっかりと取り組んでいきたい。

保育園の統廃合について、総合計画に具体的な言葉は出てこない。行政経営上、最少の経費で最大の効果をあげることが義務付けられており、市としては効果的な行政経営を常に意識し続けなければならないので、市全体の利益を考えたうえで、個別の事業として検討していきたい。また、計画で定めたからと言ってそれを強行するのではなく、関連するさまざまな皆さんの意見を聞き、丁寧に説明しながら進めていく。

緑地の整備についてもご意見をいただいた。五条川沿いの堤防道路や周辺の田畑を含め、緑地の保全は重要だと考えている。また産業の発展、都市近郊農業も重要な課題だと認識している。一方で、農業の担い手不足により休耕地が発生しているところもある。農業に関するさまざまな施策を展開しているが、市民の皆さん

んの意見を聞きながら進めていきたい。

【総務部長】 総合計画策定にあたっては、市民の皆さんとともに作っていくことを第一に、市民まちづくり会議を開催した。市民まちづくり会議は、公募委員や市民意向調査で参加意向のあった人、市民委員登録制度登録者など 37 人で構成され、昨年 8 月から 6 回にわたり開催してきた。年齢構成については、10 代が 1 人、20 代が 3 人、30 代が 11 人、40 代が 11 人、50 代が 4 人、60 代が 5 人、70 代が 1 人、80 代が 1 人で、10 年前の第 4 次総合計画の策定時より比較的若い人に参加いただけたと思っている。なお、性別については、未記入の人もいたので具体的には把握できていないが、回答を得られたのは男性 75.9%、女性 17.2%。

子どもの参画については、市民まちづくり会議の参加者に 30 代・40 代の保護者世代が多かったことから、子どもが対象の内容について親世代の意見を汲めたのではないかと思う。また、関係団体ヒアリングにおいて、PTA や幼稚園の父母の会などに保護者の方の話を聞いたので、計画に反映していけたらと考えている。子ども自身については、平成 30 年度の総合計画策定開始より前の話になるが、平成 29 年度にシティプロモーションの一環で学校キャラバンという事業を行った。これにより市内の学校を回って岩倉市のよいところや、子どもたちの想いをお聞きしたので、今後そういった内容も計画に反映していきたい。

子どもたちの参加については、指摘のあった岩倉市子ども条例に基づき、子どもたちの居場所づくりも含めて子ども行動計画を策定している。実際に児童館活動の一環として、子どもたちが自分たちで「まち」を作り活動するというイベントも行っており、子どもたちがまちづくりに関わる練習となっている。他にも、児童館を利用している子どもと岩倉総合高生が一緒になってワークショップを行う取組などもしている。こうした機会をとらえ、子どもたちの意見を汲みながら子どもたちの参加、あるいは居場所づくりを心がけている。

(3) 豊かな心を育み人が輝くまち（生涯学習・教育）

(4) 快適で利便性の高い魅力あるまち（都市基盤）

【意見等】 部活動指導サポーターの派遣とは具体的にどのようなものか。

【意見等】 基本計画に英語教育の方針についての記載がないので知りたい。

【意見等】 一般的には「健康」と書くところを、資料 2 の基本計画のとこ

ろで「健幸」という字を使っているが、岩倉市の小学校では書き取りテストで後者の字を書いても正解になるのか。また、この書き方は全国的に通用するものなのか。意味を調べても、普遍的な将来都市像である「健康で明るい緑の文化都市」の趣旨に含まれており、あえて造語を使う必要性が感じられない。

【意見等】 ふれ愛タクシーについて聞きたい。自分は北島町に住んでいるのだが、妻は運転できないため、自分がいなくなったり、雨で自転車に乗れなくなったりすると出かけられない。高齢者の皆さんも買い物に苦労している。他市町村のように、巡回バスがある方が利便性が高いのに、なぜふれ愛タクシーだけのままなのか。

【意見等】 2020年度から学習指導要領が新しくなり、英語、プログラミング、がん教育や資産形成など、民間の力を借りなければ教えられない分野が出てきた。岩倉市の新しい学習指導要領への対応はどのようなものか。

【市長】 教育分野には国一県一市という三層構造があり、それぞれの役割をいかに果たすかが課題である。補完的な部分については適切な対応をしているが、国や県の動きを注視しながら、市として何ができるかを計画に盛り込んでいけたらと考えている。

「健幸」という字についてだが、書き取りテストにおいては通常の「健康」という字が正解である。今後「健康」が「健幸」に変わっていくという訳でもない。しかし、高齢化社会が進む中で皆さんが地域で安心して心も体も健やかに過ごすために、居場所や仲間、生きがいといった具体的な「幸せ」を、行政はもちろんのこと、また地域の皆さんで力を合わせて作り上げていくという想いが込められている。また、全国的にも「健幸」の字を使っている市町村もある。

巡回バスができないかとの話があったが、従来のデマンド型乗合タクシーの利用状況を見てみると、行き先は皆さんバラバラであるため、果たして効率的なのかという疑問が残る。そして、路線バスには路線バスの役割がある。新しいふれ愛タクシーでは、以前はできなかった買い物を目的とした利用ができるようになった。また、乗合ではなくドア to ドアなので、皆さんが好きな時間に利用でき、以前は2台の車両を乗合で利用していたが、空いていればタクシー会社の車両を利用できるようになった。当面はふれ愛タクシーを継続して利用していただきたいが、交通空白地域の解消は大きな課題だと認識しているので、尾張全体の状況を総合的に考えていく。

【教育こども未来部長】 部活動指導サポーターというのは、中学校の部活動にサポーターを派遣する制度のこと。教員には顧問になっていただくが、経験がないとなかなか技術的な指導もできないことから活用している。具体的には、茶華道、水泳、剣道、美術、野球など教員では指導が難しいものにサポーターをお願いしている。なお、試合等で勝つことだけを目的に導入しているのでは決してなく、あくまでも学校教育の一環である。また、学校教員もついているため、全てサポーターに任せきりにする制度ではない。

(5) 地域資源を生かした活力あふれるまち（産業）

(6) 市民とともに歩む ひらかれたまち（協働・行財政運営）

【意見等】 コロナウイルスが流行しているが、今日現在、岩倉市内ではどこへ問い合わせをすればよいのか。また相談先の拡充はされるのかも聞きたい。

【意見等】 基本目標6の公共施設再配置計画について。中央町には公会堂などの集会所がなく、地域の自治活動は役員の家で行っている。市や社協からいきいきサロンの開設などの指導があるが、できない現状がある。再配置計画の一環で、みどりの家の一部を開放するなど、集会場について考えていただきたい。

【意見等】 基本目標5の農業政策について、担い手農家の育成が依然として課題とあるが、これまでどのような取組をしてきたのか聞きたい。また、川井町検討区域や川井野寄工業団地などの住宅化・工業化が進められ、岩倉の農地は減っていくのに、農業を進めていくのかという矛盾を感じる。それから、大規模農家だと地産地消で品質のよいものを作るのは難しいのではないか。小規模で大事に育てる楽しみも理解してもらえれば。

【意見等】 農業が基本目標5の産業のところにあるのに違和感を覚える。総合計画においては、農業の多面的な機能(水を溜めること、教育、通学路の一部であること、食育など)についても産業の面とあわせて記述をするのか。

【意見等】 基本目標5に五条川と桜と山車についての記載があるが、それぞれどれくらいの重要性があるのか。もし予算が不足した場合はどれを優先するのか。

また、先に発言があったが、コロナウイルスについて、情報が少ない。ホームページやフェイスブック、LINEでも情報発信はしているようだが、伝わっていないので、ツイッターやインスタグラム

など、多様な情報発信ができないか。

【意見等】 小中学校にエアコンを設置する際の意見交換会にも参加をした。その際、エアコンの設置ではなく、緑化を進めるなどして子どもたちの過ごしやすい環境を作れないか、という提案が市民から多数出た。しかし結果的には、全校にエアコンが設置されることとなった。本日の意見交換会では、市民から出た要望や質問がどれくらい反映されるのか。

【市長】 新型コロナウイルスについては、岩倉市においては保健センターで問い合わせ対応をし、内容によっては相談窓口を紹介することもある。

中央町の集会場について、地域の活動が活発になるにつれて活動拠点が重要になってくることは認識をしている。地域のあり方についても、行政区単位のままでいいかという議論もある。公共施設の開放については一定のルールがあるので、個別に検討したい。

これまで農業に関して、JAなどと協力しながら、岩倉市の都市近郊農業のあり方についての意見交換、農地バンクの検討、家庭菜園、休耕地の活用などさまざまな取組を進めてきた。ただ、休耕地、農業従事者の高齢化による担い手不足は岩倉市に限らず全国的な問題であるため、国レベルで総合的に考えていく必要がある。

農地の多面的な機能については、食育など、これまで色々な角度から検証をしている。総合計画の中で、言葉としてどれだけ表せるかは分からないが、農地の持つ機能を意識して政策を推進していきたい。

岩倉市の桜や山車についての話をいただいた。山車は、山車そのものだけでなく、お囃子やからくり人形の操作など、400年近い歴史の中で培ってきた価値の高いものである。これからの岩倉市の全体の利益を考え、予算などについてもその都度考えながら、桜並木や山車の保全に努めていきたい。

情報発信については、ご指摘の通りあらゆるSNSを含めた情報発信の媒体を活用することが有効であるので、できる限り皆さんの目に触れるよう情報を発信していきたい。

エアコン設置の際の意見交換会では、確かに緑化の話があった。例えば、窓の外にゴーヤやアサガオのツタを這わせるのも一定の効果があると思うが、昨今の酷暑は緑化では追いつかないものだ

と考えている。エアコンの電力の心配もあるが、抵抗力の弱い子どもたちの暑さ対策が必要と考え、エアコンの設置という選択をした。

また今回の意見交換会で皆さんにいただいた意見について、聞いて終わりということはない。表現が少々変わったり、場合によっては載せられなかったりすることもあるかもしれないが、総合計画という形に反映できなくても、個別の課題として受け止めたい。

【健康福祉部長】 新型コロナウイルスについての相談窓口は、現在、厚生労働省のコールセンターが設置されている。愛知県においても、保健医療局の健康対策課で一般的な新型コロナウイルスの相談を受け付けている。また、県内 12 か所の保健所においても、24 時間体制で相談窓口を設置している。岩倉市の相談先は江南保健所になる。他に、名古屋市の各保健センター、豊橋市、岡崎市、豊田市の各保健所においても相談を設置している。

市ホームページには各相談窓口の案内を掲載し、国や県のホームページにリンクするように設定してある。また、新たに相談窓口が開設された際には、ほっと情報メールにて皆さんに速やかに情報を発信している。

感染者との濃厚接触があった場合、中国からの帰国者との接触があった場合、その他疑わしい症状がある場合は、まずは江南保健所の帰国者接触者相談センターへ相談を。電話での症状の確認の結果、新型コロナウイルスへの感染の疑いがあり、受診が必要と判断されれば、医療機関への案内がある。愛知県では、2月11日に県内 37 か所の医療機関を受診医療機関として設置したが、現時点で医療機関名は非公表となっている。

市においても国や県の情報収集をし、速やかに市民の皆さんに情報提供ができるように努めていく。

【建設部長】 現在市が行っている農業の取組だが、まず、市民の方に農業を体験してもらう場所として市民農園を提供している。小学校区ごとに1カ所、計5カ所163区画あり、広報での周知や転入者に対しての周知を行っている。また、農業体験塾として、農家の指導のもと、年間を通して野菜作りなどを体験していただく事業を行っている。他に、親子で田植えや稲刈りなど、米作りを体験してもらう機会も設けている。

担い手農家に対しては、生産技術・経営管理の能力習得支援、

機械などの更新に関する基本的な支援などにも取り組んでいる。

地産地消については、学校給食へ野菜の提供、J A 愛知北の産直センターでの野菜の販売、駅地下道での野菜の広場などの活動の支援をしている。

以上のような支援は行っているものの、担い手がなかなか育っていないのが実態であるので、現在の支援は続けながら新たにどんな支援ができるのか検討していきたい。

### 【ご意見カード】

- ・外国人サポート職員の拡充を学校の外国語教育に利用できないか。(ネイティブが必要だと思う。)
- ・集会所の開放について回答がほしい。(中央町区長 浅野様より)
- ・農業について、一般的な担い手(大規模農家)だけでなく自給的農家も含めた「多様な担い手」の維持・育成を盛り込んでほしい。それが子育て世代への岩倉の魅力になるに違いない。
- ・小学生のころから、政治・行政に関心をもたせるしくみが必要だと思う。
- ・農業の担い手育成について、対策が支援・助成であったが、やりたい人はいえるのか。担い手不足が課題であるのなら原因をきちんと掘り下げるべき。
- ・住みよい岩倉、久保田市長の「健幸都市をめざして」等々、もっと PR を強化することを考えてほしい。
- ・一例として、岩倉のよさを中日新聞尾張版にもっと取り上げてもらってほしい。
- ・緊急性情報は、同報系無線の活用も。
- ・新型コロナウイルスの件、フェイスブックと LINE にも飛ばしてほしい。ホームページだけでは伝わりきらない。
- ・公式アカウントにツイッターの追加を希望。い〜わくんの過去の乗っ取りの件で再開しづらいと思うが、他市を参考になんとかならないか。
- ・新柳通の大地町地域の大地町の信号機の歩道の、北側と南側を点検してほしい。
- ・岩倉市の事業のほとんどにコンサルが入っているのはなぜか？コンサル不要では？